



2027年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年8月12日

上場会社名 大和自動車交通株式会社

上場取引所 東

コード番号 9082 URL <https://www.daiwaj.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 大塚 一基

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 大村 正文

TEL 03-6757-7164

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	5,222	5.1	92	29.4	61	46.0	12	—
2026年3月期第1四半期	4,969	7.2	130	—	114	—	44	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 259百万円 (—%) 2026年3月期第1四半期 45百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	2.92	—
2026年3月期第1四半期	10.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	29,800	9,777	32.7
2026年3月期	29,561	9,575	32.2

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 9,730百万円 2026年3月期 9,528百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	4.00	—	5.00	9.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,500	6.2	250	9.4	150	29.9	100	300.8	22.46
通期	21,000	5.5	500	30.1	100	62.0	100	55.1	22.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 2 社 (社名) 宮園砒油株式会社、大和自動車交通豊島株式会社、除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年3月期1Q	5,250,000 株	2026年3月期	5,250,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2027年3月期1Q	797,830 株	2026年3月期	795,710 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数 (四半期累計)

2027年3月期1Q	4,453,185 株	2026年3月期1Q	4,442,085 株
------------	-------------	------------	-------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 3 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(追加情報)	9
(重要な後発事象の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、4月以降中東情勢悪化の影響が本格化し、燃料価格高騰や資材不足等に見舞われたものの、政府の物価高対策やAI・半導体関連需要の拡大、高騰していたコメ価格の下落等により、緩やかな回復基調となりました。米国とイランの攻撃停止合意により、中東情勢を巡る不透明感は緩和しつつありますが、ウクライナ情勢も含め、依然として地政学リスクに注視が必要な状況が続いております。

このような経済環境のなか、当社グループにおいては、すべての人の健康と安全を最優先に、新型コロナウイルス感染症の再拡大防止に最大限留意しながら、将来のモビリティのサービス化(MaaS)やAIの活用、自動運転分野の更なる発展による事業構造の大きな変化の流れに対応していくため、2027年度をゴールとする3ヶ年中期経営計画「中期経営計画2027」の第2期目を推進しております。

「中期経営計画2027」は、アフターコロナに移行しコア事業である旅客自動車運送事業・不動産事業の市場が回復、当面は堅調な需要増加が見込まれる事業環境の中で、中核事業の収益性向上によって健全に利益を上げられる企業体質をつくりあげるとともに、当社グループが掲げる「人・地域社会・モビリティの『新しい調和』をつくる先進企業グループへ」という「ビジョン2030」実現のためのステップとして位置づけています。

このビジョン実現のため、「中期経営計画2027」においては健全な利益を上げる企業体への転換と持続的な地域社会の交通インフラ維持への貢献を全社の重点課題としてとらえ、事業の収益性向上や経営基盤のアップデートを行うとともに、上記重点課題解決のための研究や新しいサービスへの取り組みを行ってまいります。

事業の収益性向上に関しては、前中期経営計画である「中期経営計画2024」の基本方針の「再成長に向けた基盤づくり」において売上獲得にかかる成果は上げられたものの、利益面では若干の経常損失に終わり業績回復は道半ばとなったことから、「中期経営計画2027」の実行にあたっては、これまで以上に資本コストを意識した経営に注力し、業績回復に努めております。具体的には、特に中核事業である旅客運送事業において人材確保と経営効率化を推し進め、利益創出力を高めております。

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、主要事業である旅客自動車運送事業において、乗務員増加による稼働率上昇のほか、2026年3月16日に多摩地区、同4月20日に東京武三地区でタクシー運賃の改定が施行されたこと等により増収となり、売上高は5,222百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益は燃料費高騰もあり92百万円

（前年同四半期比29.4%減）、経常利益は61百万円（前年同四半期比46.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は12百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失44百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

① 旅客自動車運送事業部門

タクシー部門では、乗務員増加による稼働率上昇のほか、2026年3月16日に多摩地区、同4月20日に東京武三地区でタクシー運賃の改定が施行されたこと等により増収となり、売上高は3,125百万円（前年同四半期比7.2%増）となりました。

前連結会計年度までのタクシー乗務員採用活動は一定の成果があり、当第1四半期連結累計期間の増収にも寄与しておりますが、日本型ライドシェア制度の発端ともなったタクシー不足への対応と当社グループが保有する車両の稼働率上昇による収益の向上を目指し、これまでと同様に乗務員の採用活動に注力してまいります。

お客様と接するフロントエンドであるタクシー車両については、飛沫感染防止ボード、低濃度オゾン発生器、空気清浄モニターの設置、車内除菌作業等による「ニューノーマルタクシー」化をこれまでどおり進め、お客様に安心・安全・快適な車内空間の提供を心掛けております。また、車窓モビリティサイネージサービス「Canvas」に対応したタクシーの運行やラッピングタクシー等により車両広告の拡販及びビジネスの推進を行っております。

こうした活動を通じてお客様のニーズに合うサービスの提供をより一層心掛け、誰からも選ばれるタクシーを目指してまいります。

ハイヤー部門では、収益性改善の進展がありつつも、週末の悪天候による利用低迷や契約台数の減少等により、売上高は762百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。コスト上昇の影響はあるものの、利益は着実に確保しております。これまで以上に乗務員教育を充実させてハイヤー乗務員としてのレベルの維持向上に努めると共に、SDGs達成に向けてエコドライブの推進・実施による燃料消費量・温室効果ガス削減に取り組んでまいります。

以上の結果、タクシー部門とハイヤー部門を合わせた旅客自動車運送事業売上高は3,887百万円（前年同四半期比5.6%増）、営業利益は85百万円（前年同四半期比20.4%増）となりました。

旅客自動車運送事業の最重要課題である乗務員確保、高齢化社会の到来に伴い多様化する生活サポート・福祉関連ニーズの高まりに応えるため、大和グループの総力を挙げ、「安心・安全・おもてなし」の更なる向上

に努めてまいります。

② 不動産事業部門

不動産事業部門では、東京近郊並びに京都府京都市の賃貸収益物件等を柱として収益を確保する一方で、将来の不動産事業の収益力向上を目指し、当社並びにグループ会社が保有する不動産の一部で再開発を進めております。これらの一環で、新たに東京都江東区に居住用賃貸収益物件を建設し、事業の用に供しました。さらに、2026年2月に東京都葛飾区に賃貸収益物件を建設したことにより宮園砒油株式会社の重要性が増加したことから、同社を期初より連結対象に含めております。

再開発を行っていない既存の物件についても、これまで同様テナントの要望に沿った施設の改善に努めるとともに、大手仲介不動産会社や各物件所在地元不動産会社と継続して積極的な情報交換を実施し、事業収益の増強に取り組んでおります。

以上の結果、不動産事業の売上高は290百万円（前年同四半期比12.5%増）、営業利益は161百万円（前年同四半期比0.5%増）となりました。

③ 販売事業部門

自動車燃料販売部門では、新規得意先開拓等の顧客営業を強化、仕入コストの見直しや、代替商材の販売を行うことで営業利益の確保に努めてまいりました。しかしながら、原油価格や自動車燃料の高騰、資材の供給懸念等、予断を許さない経営環境が続いております。

金属製品製造販売部門では、一部資材において中東情勢の影響を受け供給制限や遅れなどが発生、円安進行や原材料・エネルギー価格の高止まりによる諸物価高騰がコスト上昇圧力となっております。加えて、防犯上の観点から主力商品の集合住宅用標準外階段が減少傾向にあることから、高利益率の見込める特注階段等の受注生産を積極的に展開し、安定的な収益基盤の確立と営業利益を確保しつつ、新たな販路開拓を進めております。

以上の結果、販売事業の売上高は505百万円（前年同四半期比1.8%増）、営業利益は36百万円（前年同四半期比45.1%減）となりました。

④ サービス・メンテナンス事業部門

サービス・メンテナンス事業部門では、ゴルフ場クラブハウスの清掃・設備管理をメインとした総合管理業務及び商業施設並びにホテル等の清掃業務を主要事業としており、顧客との年間契約に基づき、ゲストの皆様にご満足いただけるための安全で清潔な最適環境作りを提供しております。

以上の結果、サービス・メンテナンス事業の売上高は538百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益は22百万円（前年同四半期比62.3%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

① 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は29,800百万円となり、前連結会計年度末に比べ238百万円の増加となりました。これは当期より連結対象に含めております宮園砒油株式会社の所有する資産が加わったこと等により有形固定資産が754百万円増加した一方、長期貸付金が581百万円減少したこと等の結果、投資その他の資産が312百万円減少したこと等によるものであります。

② 負債

負債は前連結会計年度末に比べ36百万円増加の20,022百万円となりました。これは未払費用が280百万円増加した一方、未払法人税等が92百万円、賞与引当金が101百万円減少したこと等から、流動負債が70百万円増加したこと等によるものであります。

③ 純資産

純資産は前連結会計年度末に比べ202百万円増加の9,777百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金が269百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の32.2%から32.7%に増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、現在予測可能な情報を用いて随時見直しを行っておりますが、現時点において、2026年5月13日付「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました業績予想に変更を行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,551	3,448
信託預金	70	-
受取手形、売掛金及び契約資産	1,853	1,944
商品及び製品	86	79
仕掛品	32	54
原材料及び貯蔵品	58	66
その他	816	667
貸倒引当金	△17	△17
流動資産合計	6,452	6,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,659	7,892
土地	11,525	11,714
その他（純額）	2,381	1,712
有形固定資産合計	20,565	21,320
無形固定資産		
その他	38	43
無形固定資産合計	38	43
投資その他の資産		
その他	2,647	2,328
貸倒引当金	△142	△136
投資その他の資産合計	2,504	2,192
固定資産合計	23,108	23,556
資産合計	29,561	29,800

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	495	441
短期借入金	5,228	5,224
未払法人税等	135	43
賞与引当金	152	50
その他	2,071	2,394
流動負債合計	8,083	8,154
固定負債		
長期借入金	7,438	7,251
退職給付に係る負債	772	783
資産除去債務	277	277
株式報酬等引当金	43	50
その他	3,370	3,504
固定負債合計	11,902	11,868
負債合計	19,985	20,022
純資産の部		
株主資本		
資本金	525	525
資本剰余金	10	10
利益剰余金	9,407	9,337
自己株式	△781	△781
株主資本合計	9,161	9,091
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	407	676
退職給付に係る調整累計額	△40	△38
その他の包括利益累計額合計	367	638
非支配株主持分	46	47
純資産合計	9,575	9,777
負債純資産合計	29,561	29,800

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	4,969	5,222
売上原価	4,332	4,638
売上総利益	637	584
販売費及び一般管理費	506	492
営業利益	130	92
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	8	9
受取家賃	8	3
補助金収入	10	10
その他	13	17
営業外収益合計	42	41
営業外費用		
支払利息	54	70
その他	3	0
営業外費用合計	58	71
経常利益	114	61
特別利益		
固定資産売却益	29	8
特別利益合計	29	8
特別損失		
固定資産除却損	122	0
リース解約損	0	-
支払補償費	-	19
その他	0	-
特別損失合計	123	19
税金等調整前四半期純利益	20	50
法人税、住民税及び事業税	56	40
法人税等調整額	8	21
法人税等合計	65	62
四半期純損失(△)	△44	△12
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△44	△12

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純損失(△)	△44	△12
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	269
退職給付に係る調整額	2	2
その他の包括利益合計	△0	271
四半期包括利益	△45	259
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45	258
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度まで非連結子会社であった宮園砒油株式会社につきまして、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

また、新設分割により大和自動車交通豊島株式会社を設立し、連結の範囲に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	206百万円	227百万円
のれんの償却額	－百万円	0百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,683	258	496	531	4,969	-	4,969
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	161	170	11	342	△342	-
計	3,683	419	667	542	5,312	△342	4,969
セグメント利益	71	160	65	13	311	△180	130

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,887	290	505	538	5,222	-	5,222
セグメント間の内部売上 高又は振替高	0	102	219	12	334	△334	-
計	3,888	393	725	550	5,557	△334	5,222
セグメント利益	85	161	36	22	305	△213	92

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(追加情報)

当社の子会社である大和自動車王子株式会社(現 大和自動車交通吉祥寺株式会社)において、2022年10月に発生した人身事故にかかる損害賠償について現在和解に向けた交渉中であります。和解交渉の結果によっては今後損失発生可能性があります。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。